

●第2回の親子で遊ぼう学ぼう魚とり in 蛇籠での生き物調査 6月1日 10時から実施 晴天続きです。すっかり木津川に流れる支川が干しあがっています。この時期稚魚が生まれる時期なのですがピンチのようです。それでも木津川のごく浅瀬では元気なものもかなり見られましたが、捕獲は難しかったです。相変らず至極天気が良く疲れました。久しぶりに北野君や小林君の若手の元気な声に力をもらえたようです。私の記録によると39種が確認できました。ほとんどが生まれたばかりの稚魚でした。次回の9日にはどれほど大きくなっているのが楽しみです。この日は調査を主体にしていましたので、蛇籠の横の瀬、砂州頭沿川、蛇籠下流の止水域の三カ所のモニタリングを行いました。参加者の多くは初体験でしたので、網目の細かさに目を細くしていました。木津川での底生生物の本格的な調査は初体験でした。いいとりくみになりました。

●臨時理事会 6月3日(月) ▲イベント=85回の担当者決定 2019年度のイベントとして計画しているものは85回に上ります。ここには木津川希少種生調査管理業務と講習会以外に行う竹蛇籠製作は別枠に、また里山農園作業や夏原グラントなどを掲載していませんので、含めると行動日数は年間100日は優に超えることになります。理事各位と事務局出席者が、主として担当していただくイベントを明確にして、どのイベントにも全員が協力をする体制でもって事業推進を図ることを確認しました。そのうえで喧々諤々の論議になるだろうと予想しましたが、案外静かに進められました。担当者は企画と執行と総括の3段階の推進をはかっていただくことになります。打ち合わせ記録や写真を確実に撮影し、情報の共有に役立てていただきたいと思います。

最終的に記録を正確に処理し整理するところまでの作業をお願いします。

それぞれ多忙で、高齢化で、持続力気力の後退もかなり気になりますが、一極集中だと厳しくなるので、できるだけ分散方式;協力方式で取り組んでいこうと理解が深められました。会員各位におかれてもいいことだと賛同いただけたと思います。また深田新理事長からも「皆様のご協力をお寄せ下さることをお願い申し上げます」と挨拶がありました...

▲来年度は里山の会結成25周年を迎えることになりますので、その記念事業の企画案について検討理事会の開催を決定しました。第1回は6月25日(火)、第2回は7月16日(火)、第3回目は8月6日です。結成記念日は1996年5月11日ですので、祝賀会を5月とすると1年と少々になり、やっつけ仕事になりそうです。この時を新たな出発の決意にする場合、これまで積み残してきた課題をこの節目に整えなければならないとすると時間はあるように見られますが足りないように考えられます。

25周年の祝賀会を準備しなければならないほどよくもまあここまで継続活動をしてきたものです。次回発行で47号となる機関誌「里山の自然」によって証明されます。また私たちの活動によって、少なくとも京田辺市域の自然史分野における歴史的な記録が明らかになりました。日本の国蝶『オオムラサキの生育の確認』、京都府が『絶滅の恐れがある生き物』に指定されている『ヤマトカスミサンショウウオ(カスミサンショウウオ)』の発見、また『レンリソウ』は絶滅していたとされていた幻の花を発見したこと。木津川堤防に1本しか生育していないフナバラソウの発見等数限りない大きな社会貢献を行ってきました。こうした社会貢献を総まとめの場として記念祝賀集会をどのように開催するのかについて検討会議の開催を決定されたのです。

●ヤマト(カスミ)サンショウウオの保存担当者の決定 京田辺市でヤマトサンショウウオの卵嚢が発見されたのは10年以上も前のことです。それ以後いろいろ調査観察を繰り返してきましたが、なかなか出会うことがなく一昨年(2018年)の正月に京都大学生の福山君と里山の会のメンバによって成体(親)の発見になったのです。そして今年は生育池周辺にアライグマやイノシシ、ノウサギ、タヌキが出没する姿が監視カメラによって確認され、防護のために電気柵を設置しました。これについて一部は協力理解が得られていましたが、全体保護の立場から計画よりも広範囲になり、苦言がよせられました。そのために生育池周辺への立ち入りは極力限定するとして、担当者を届け出ることになりました。メンバーを届け出ていますので、

以外の方が観察などを希望される場合は、地主様に連絡することに改めました。ご協力をお願いいたします。また付近への接近がされる場合には里山の会の腕章等をつけて身分や立場をはっきりさせていただきましようお願いします。

●木津川花散策 8日 JR木津駅西口 10時出発 間近になってのお知らせですが、土曜日の8日、JR木津駅西口を出発して、木津川堤防を中心に棚倉駅までを花散策としてウォーキングします。とっておきの草花はマキエハギです。これは里山の会が木津川で発見するまでは日吉町に3本程度がやっと生育しているだけで、絶滅が大変心配されたものです。それが木津川では当たり前のように生育していたのです。京都府の絶滅寸前種から改定されました。まさに里山の会の大きな実績なのです。歴史遺跡が多く残るところですが、少し注目していただきたい草花です。

●第3回親子で遊ぼう学ぼう魚とり 9日 9時30分山城大橋東詰集合 すっかり木津川の水量が少なくなりました。魚たちはどうしているのでしょうか、いつもの魚とり場所には水が枯れてしまいました。本流に近づかなければならない最悪の条件になっています。自然の姿を目の当たりにしてご確認ください。待ち遠しい雨が近づいているようなので、一応参加者の募集を予定通り行います。ふるってご参集ください。7月に入ってから募集は地域限定になります。今回と3回目は全地域からのオープン参加になります。要領はホームページをご覧ください。基本的に参加費無料で行います。資料希望者には1000円の冊子を準備しています。水の中でも脱げない靴、水筒 帽子 タオルなど熱中症予防を第一におねがいます。塩、あめなども必要でしょう。たも網はご用意ください。昆虫用の丸い網では魚は捕れませんのでご注意ください。申し込みは里山の会まで『はがき』または『FAX』で住所 氏名 年齢 電話番号 メール番号をご記入ください。 いずれも保護者同伴でお願いします。子供のみ参加は認められません。

●蛍の夕べと里山音楽会 15日(土) ここしばらく雨の動きが弱く晴天続きです。田植えもあちこちで本格化しております。いよいよ蛍の発生の時期を迎えます。京田辺市で自然のまま姿を見せる場所は少なくなりました。里山の会は発足依頼23年間蛍の夕べを企画してきました。これまでどんな悪条件のもとでも必ず姿を確認することが出来ています。昨年大雨や台風で小川があれ、ニナガイが流された影響があると思いますが、貴重な命のつながりを目にできるものと思います。こぞって見守りたいものです。里山農園ではいまササユリが開花が始まってきました。小さく弱々しい若い茎に大きな蕾がついています。いいにおいを与えてくれそうです。15日の蛍の集いでは遅れ咲きのものが皆さんを歓迎してくれるでしょう。楽しいプログラムをお楽しみにしてください。出席者みんなでウグイスの鳴き声を耳にして夕食を楽しみましょう。新緑まっさかりの素晴らしい緑に包まれていただく夕食は格別においしいものです。里山農園で収穫した無農薬栽培でのタマネギを3個100円で提供させていただきます。600玉と数量に限りがございます。売り切れのときはご容赦ください。また大量に必要な皆様は別にご注文を事前をお願いします。

●木津川マラソン実行委員会への返答書 ハガキで郵送 経過はかれこれ2年に及びますが、里山の会は自主的に支援応援を行ってきました。完全ボランティアで年間を通じて維持管理を行ってきました。大会当日を除く相当数の作業でした。これについてはふさわしい扱いをと契約方式との扱いを提起しましたが、折り合いがつかず、選手輸送と駐車場については実行委員会とは無関係に、出場選手に迷惑が掛からないように 自主的な取り組みとして動きました。

今回実行委員会への参加呼びかけがありましたので、理事会及び事務局会議で再確認の上、返答書を送付いたしました。これまで多数の皆様の大きなご協力をいただきましたことに心からお礼申し上げます。

●入院治療されていた有田勉さまが本日退院されることになりました。よかったです。